

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年10月2日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100393
法人名	医療法人 友志会
事業所名	グループホーム 良友
所在地	鹿児島県鹿児島市玉里団地二丁目5番1号 (電話) 099-229-8222
自己評価作成日	令和2年9月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年9月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階に循環器内科クリニックがあり、平日は医師・看護師が在中している。クリニックは在宅療養支援診療所の届出をしており、良友の入居者様は月2回の訪問診療を受ける事が出来るため、御家族も安心して預けられると御意見をいただいている。

スタッフは正社員が多く、落ち着いたケアサービスを提供している。開放的な環境で雰囲気がよく、御家族にも来訪しやすく話しやすい関係性がある。遠方の御家族にも定期的にお越しいただけるなど交流を設けている。

1日30品目を心掛けた手作りの食事を提供している。

入院・加療が必要になった際には、くわはたクリニック医師が地域の医療機関と連携を執り、移籍がスムーズに出来ている。退院後も検査や専門の治療を受けた専門機関との連携を通じ、くわはた主治医のもと引き続き健康管理やフォローを受け、安心して生活出来ている。

看取りを行っているため、重度化された際にも拠点を移す心配もいらず、人生の最期まで住み慣れた環境で過ごすことが出来ると安堵いただいている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市役所から車で約10分程の玉里団地の中心部に、母体法人の医療機関の2階に平成20年に開設されている。同一敷地に「グループホーム玉里」も併設されており、防災訓練や職員研修等は合同で実施するなど、密に交流が図られ協力体制を構築している。周辺には、医療機関や薬局、金融機関、コンビニ、スーパーマーケット、個人商店等が立ち並んでいて利便性も十分である。

地域密着型事業所として、地域との交流を大切に取り組んでおり、自治会に加入し民生委員の熱心な協力も得られて、地域行事への参加や施設見学、様々なボランティアの受け入れ、友人知人の面会等へも積極的に取り組んでいる。

管理者及び職員は、運営理念を廊下や事務室等に掲示し、朝礼での唱和も行っており、周知を図り、利用者の尊厳や人格、想いを大切にしなが、ケアのモットー「目配り、気配り、心配り」を常に意識して、利用者寄り添ったケアに努めている。日頃のケアの中や面会時、電話等で利用者や家族の意向や要望等を把握し、随時ミーティングを開催して改善を図っており、家族との協力体制や信頼関係が築かれている。日々の生活も各利用者の心身の状態や生活習慣に配慮し、趣味や特技への取り組みなど個別の支援も取り入れるなど生きがいのあるケアに努めている。

利用者の何よりも楽しみで関心も大きい日々の食事については、栄養バランスや形態、旬の食材、好み、盛り付け等に配慮し、一日30品目の食材を取り入れたメニューで調理している。おせちや敬老の日、誕生会、彼岸等の行事食、手作りのおやつ、家族との会食、外食等の工夫を行っており、利用者にも喜ばれている。

管理者は、日頃から気軽に意見を言い合える信頼関係と協力体制を構築し、意見や要望の把握に努め、個人的な事情にも配慮して、サービスの向上や働きやすい職場環境の整備を法人代表とも協議しながら取り組んでいる。ケアに対する助言・指導やスキルアップを図る研修の実施、資格取得へのバックアップも積極的な姿勢が見受けられる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の唱和と共にその意義を皆で認識している。またネームプレートに印字しており、いつでも確認出来るようにしている。理念に掲げる通り、御本人・御家族・地域が継続的に関係性を維持できるように共同・協力しながら支援に努めている	自宅での生活が困難になった利用者の尊厳を大切に、平穏な生活の支援を運営理念に掲げ、毎朝唱和すると共に事務室や廊下等に掲示し職員のネームプレートにも明記して周知を図っている。ケアの姿勢「目配り、気配り、心配り」を常に意識しながら、理念に沿った支援の実践に取り組んでいる。4項目からなる理念を簡潔にできないか検討中である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	民生委員から地域の取組や情報をいただき、地域作品展への出品や鑑賞会、夏祭りなどにも参加している。また良友での催しにも地域住民を招待するなど交流を深めている。	町内会に加入し、地域の情報の把握に努め、会合の出席や夏祭りへの参加、地域文化祭に作品を出展して見学に行く等、交流に取り組んでいる。家族・友人の面会や施設見学、ボランティア（歌、踊り楽器演奏他）等を積極的に受け入れ、日頃の散歩や買い物時には地域の人と話し、地域の人からの認知症ケアの相談に助言する等、円滑な交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域住民を良友の催しに招待し、入居者の生活の御様子を観ていただき、住民からの認知症や生活への困りごとなど相談できる場を設けている。クリニックの患者様から介護相談の問い合わせがあり、対応することもある。グループホームや他施設との違いや特徴・役目などの話もしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取組や成果などを定期的に話す機会を設けていると同時に、実際に生活の場で行われていることを見学していただき理解を深めている。地域の情報や課題なども伺い、参考にしたり意見交換等も行っている	家族や地区民生委員、地域包括支援センター職員等が出席して同敷地内（同法人）の「グループホーム玉里」と合同で定期的に関催しており、利用者の状況や行事、ヒヤリハット等の報告を行い、委員からは利用者のケアに関する質問やテーマを決めての意見交換等がなされている。出された要望等は申し送りやミーティング等で検討してサービスの向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者とも顔馴染みとなり、運営に関する必須事項や不明点などアドバイス・指導を受け取組に役立てている。担当者も育てようという気持ちで協力的であり相談しやすい。	市の介護保険や長寿安心相談センターの職員とは電話や窓口に向いて、各種の制度や報告に関すること、ホームの運営や利用者に係る相談等を行って助言・指導を頂く等、かねてから協力関係を築いている。行政主催の会合や研修会等にも積極的に参加して意見や情報の交換を行なって、サービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自分たちが行っている行為が身体的拘束に値していないか、申し送りやカンファで検討し合ったり、皆に評価して貰えないか、自主的に相談したりする機会を持ち、振り返りや見直しの場を持ち共有することが出来ている。定期的に勉強会も行い再認識している	身体拘束の廃止を運営規定に明記し、日頃の業務の中や申し送り、ミーティング等でケアの振り返りや勉強会を行っている。また、身体拘束適正化委員会も定期的に開催して認識を共有しており、利用者の気持ちを尊重した拘束しないケアに取り組んでいる。不適切な言葉遣いには注意し合って改善を図り、外出したがる利用者には、見守りや寄り添い等により気持ちの安定に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的拘束と虐待は連動するものと認識し、上記同様、どのような行為が虐待や拘束に値するのかをチームで評価する機会を設けている。また職員の精神面を皆で把握し、必要時には面談やアドバイス等を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用したいという御家族からの申出により、弁護士や銀行からの本人意思決定能力などの審査の立会いや相談に応じた経緯がある。今後も社会的に増加すると考えられるので勉強会に取り入れていきたい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、不明点に関して質問を受けたり、他必要事項に関しては別紙で御案内文を作成し、誤解のないよう努めている。御要望や御意向に関しても様々なので、擦り合わせを充分に行い支援に努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者には日ごろのスキンシップで御要望や情報を得ており皆で検討し合っている。面会時には御家族にも都度御意見いただいている。またケアプラン更新時などで話し合った内容を担当者会議録や経過支援などに記載している。	利用者の思いや意向は日頃の会話や表情、所作等から理解に努め、家族の意見や要望等は運営推進会議や家族会、来訪時及び電話での対話、意見箱の設置等で意見をもらう等、工夫して把握している。職員は出された内容をミーティングや担当者会議等で共有し、法人本部とも協議しながら改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個別でも積極的な意見を得ることが出来ており、現場に活かしている。必要時には管理者会議や経営会議で上層部と協議や検討を行い、職場環境の改善や運営に反映させている。	管理者は日頃から気軽に意見が言い合える信頼関係の構築に努めており、業務の中や定期（年1回）の個人面談、日常の個人的な相談等で要望や意見を把握し、法人本部とも協議しながら改善に努めている。また、ケアへの助言やスキルアップを図る研修の実施に努め、勤務シフトや外部研修の受講、休日の取得には個人的事情や希望に配慮する等、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チーム・個別、置かれている状況や役目を各々が理解し課題に取り組んでいる。またその成果を仲間や管理者・法人で評価し、またそれらが継続していけるよう研修や勉強の機会を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>課題に応じ仲間からの意見を参考に、振り返りや実践の機会を得ることが出来ている。また状況に合った勉強会や、個別・チームに必要な内外研修を取入れ、共通認識を深めている。代表者も個人の特徴を理解し助言指導などを行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>鹿児島市訪問看護協会主催の地域連携勉強会や包括主催の連携会議など意見交換できる場に参加し繋がりを広げている。また理事長より介護保険に詳しい方の紹介や地域情報などをいただいている。クリニック勉強会への参加もしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至った経緯や関係性・意向・御要望など、御本人・御家族の話を十分に伺い、望む支援を提供できるよう努めている。入居直後は特に生活に対する不安が双方に生じやすいので、御家族にも訪問しやすいよう環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活の変化や日常の御様子をお伝えし、御利用者の日々の状態が御家族にも把握出来るように努めている。入居後は特に不安も多い為、その気持ちに寄り添いつつ一緒に協力や理解を得ながら取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特に環境変化に伴う精神への影響が一番の課題とするところであり、御家族と御本人の状況等を毎日話し合い検討を重ねながら慎重に進めている。必要時には民生委員や長寿安心センターから情報をいただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も御利用者の生活環境の一つであり一番身近で影響を与えやすいことを理解・自覚している。御利用者の尊厳を守りパーソナルが保たれるよう配慮し、強さを引出し相互作用・発展しながら活動の継続に繋げている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今まで在宅で支えてきた経緯を尊重しやむなく入居となった今でも、御利用者と御家族が共有できる機会を持ち、お互いが充実出来るよう御希望や状況に柔軟に応じ環境を整えて支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	趣味活動の仲間や御近所の方々が来訪したり、手紙や贈物等の支援をいただいている。またその活動を継続したいという御希望に添えるよう地域との調整や御家族の協力・民生委員の情報を得て支援している	入所時のアセスメントや日頃の利用者との会話、家族からの情報等で馴染みの人や場を把握し、心身の状態や感染症予防等に配慮しながら散歩や買い物、美容室の利用、通院、外食、地域行事見学、一時帰宅等を家族と協力して取り組んでいる。家族や友人等の来訪時には、ゆっくり面談出来るように配慮し、電話や手紙を取り次ぐ等、関係の継続に努めているが、現在は新型コロナウイルス感染症の予防の為、帰宅以外の面会や外出は自粛中である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物を畳み居室まで届けたり、励ましや声掛け、また椅子を引いたり障害物をよけて下さる等、お互いの状況を理解し気遣いされ、出来ることを皆で支え協力する関係が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居されている方の御近所様の入居紹介や退居された方の御家族から一緒に働きたいという問い合わせ、マスク等の支援物資などをいただく等、支えていただいている。御逝去後、電話や来訪で心境等話す機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族の意向や情報を聴き、御利用者の御要望に添って一緒に検討し合い柔軟に対応している。個性も多様化にあるので実践と検討を繰り返し、望む生活となるよう工夫している。	利用者の思いを日頃のケア中で把握し、その人らしい暮らしとなるよう家族とも連携して取り組んでいる。趣味や家事（台拭きや洗濯物たたみ等）の取り組みも利用者の習慣や意欲、残存機能に配慮しながら個別に支援しており、生花の先生をしていた利用者にイベント時の花を活けてもらったり、利用者のさつま狂句を掲示する等、その成果には達成感が得られるような評価や感謝の言葉かけに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの経過や歴史等、背景を含めて御利用者の人格や人柄、今の状態に繋がっていると認識し、御家族含めエピソードや習慣などを伺いケアのヒントを得ることが出来ている		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	高齢者は廃人ではなく、これまでの歴史の中で培ってきた経緯があり、強さもあると日々感じている。また潜在的な能力を引き出せるよう触発したり表出の機会をつくり発展している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームの一員であり連携であるという意識を持ち職員はケアに遂行している。また御利用者の様子や変化に気づき積極的に意見したり検討する機会を設けている。その意見を反映し介護支援専門員がプランを立てており、定期的に話し合いを行い実践評価や見直し等行っている	本人・家族の意向を把握し、主治医の指示やモニタリング及び担当者会議時の意見を基に、残存機能や生きがいに着目した利用者主体の介護計画を作成している。ケアの実施状況は業務日誌やバイタルチェック表等で共有し、利用者の状況変化に応じて計画の見直しを行って改善に取り組んでおり、計画の内容は家族にも説明して理解を得ている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援専門員がリードして定期的にケアの実践経過を皆で評価し、ケアの見直しや検討を行っている。また必要と思われる事柄については手段や方法、環境などを一緒に整えて実践に繋げている。職員は主体性を持ち御利用者把握に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者の希望も多様性があり、必要時には民生委員や長寿安心センターなどから地域の情報を得て実現に向けて関係者との調整を行っている。引っ越しや入退院時に必要な援助を家族に代わって行うこともある。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域文化祭に出品し、作品展を鑑賞し御自身の作品の展示を御覧になったり、地域高齢者の作品から刺激を得たりして張りや意欲に繋がっている御様子である。買物や美容室など馴染みの所に行くのを楽しみとしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	クリニックと併設しており主治医も定期的に様子確認したり早期対応して下さり、また必要時には地域の医療機関との連携もスムーズなので御利用者も御家族も安心されている。御家族へも段階を追って説明している。	本人・家族が希望する医療機関での受診を支援しているが、殆どどの利用者が法人母体でもある協力医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療や訪問マッサージ、必要に応じて訪問看護が実施されている。他科受診は家族と協力して同行しており、病状や受診結果等についても密に連携を図っている。協力医療機関との24時間医療連携体制も構築されて利用者、家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用するときには主治医の指示や、ケアの方向性・目的等を確認している。連絡ノートを準備し連携とりやすくしている。またケアと一緒に立会い援助しながら、プロである訪問看護師からの指導を受け勉強の機会になっている。クリニックが併設しているので御利用者の状態を必要に応じて報告し情報共有し早期に対応出来るようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には環境変化で不安も多いので、職員が交互に入院先を訪れて支援を継続的に行っている。また御家族の負担軽減につながる手助けなど支援している。入退院時には関係者に直接会い、御本人に関する情報や御要望、支援内容等をお互いが伝え合う機会を設けている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族には入居の際や緊急等の必要時、予後を見据えて段階的に主治医から御家族にムンテラを行いケアの方向性を話し合い同意を得ている。馴染まれた環境の良友での看取りを希望される方も多く、その方らしく穏やかに最期を迎えられるよう医療連携をとりながら取り組んでいる。	重度化や終末期の対応については「入居者の看取りに関する指針」を整備しており、入所時に本人や家族に説明して理解を得ている。利用者が重度化した時点で、職員や関係者、家族は十分な話し合いを行って、可能な限り希望に添った支援体制で取り組んでおり、本年度すでに4件の看取りを実施している。実施後は振り返りや勉強会を行ってスキルアップや不安の軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	御利用者の病状や既往、服用している薬などを把握している。事故や緊急時にはすぐに管理者へ報告し必要時には主治医へ判断・指示を仰ぎながら早期に連携して対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>建物が鉄筋であるため、また土砂水害地区ではないので、火災以外は外へ避難せず建物内にとどまるよう訓練している。また地域住民の避難場所として民生委員の協力を得て周知を図り、防災食等の備蓄も行っている</p>	<p>消防署の協力を得て、年2回夜間発生も想定した火災訓練を3階の「有料老人ホーム天照」や「グループホーム玉里」と一緒に実施し、避難や通報、消火器等の取扱いの研修も実施している。日頃から避難経路の確認や報道された災害事例を基に意見交換するなど、認識を共有している。鉄筋の建物で、スプリンクラーや自動通報装置、防火扉等が設置され、連絡網の整備、設備の定期点検も行っている。台風時の近隣住民100人位の避難の受け入れも想定して、食糧・飲料水の備蓄等は多めに備えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者の人生や誇り、性格、精神面等、個別性にも配慮し、態度や声掛けに気を付けながら接している。またチームメンバーで振り返りやカンファレンスを行い実践に活かしている。	利用者の人格や誇りを損ねる事の無いよう言葉かけや対応は、常に敬愛の気持ちと笑顔での支援に努めており、勉強会も実施して認識を共有している。利用者の心身の状態やこれまでの習慣等にも配慮しながら、思いに沿ったケアに取り組んでいる。印刷物への氏名や写真の掲載については入所時に意向を確認しており、居室、浴室、トイレ等もプライバシーが確保された構造で個人記録等も適切に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない一言や「こうあったら嬉しい」等の表出を受取り、御希望に添えるよう話し合いをしながら環境を整えている。言えない方にも「思い」に添うという視点を大事に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あくまでも御利用者の生活の場であり意志があることの認識を持ち、その方が主体的に取組判断出来るよう、自分達の立ち位置や声掛け・態度に気を付けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節や気温・天気などを考慮し、色の組み合わせや嗜好に応じてコーディネートしている。迷った時には助言等で支援している。毎日のスキンケアや化粧の時間も大事にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど出来るところを協力していただきながら御利用者と一緒にやっている。配置もその時の御利用者の関係性や精神面等を考慮し、必要時には対応工夫している。御家族面会や来客時にはゆっくり団欒出来るように環境整備や気配りをしている。退居された方の御家族から手作りのランチョンマットをいただいたので、それを利用し華やかな雰囲気作りに役立っている。	利用者の好みや形態、栄養バランス、アレルギー、季節感等に配慮しながら、1日に30品目の食材に心がけた食事づくりに取り組んでいる。行事食（おせち、誕生会等）や手作りのおやつ（桜餅、ジャムなど）、家族との会食、外食等食事が楽しみなものになるよう工夫し、座席の配置やテーブルクロスや活花等で雰囲気づくりにも配慮している。利用者も準備や片付け等を楽しみながら行い、職員も歓談しながら一緒に食事している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や状態に応じて柔軟に対応している。1日30品目を心掛けて日々のメニューを提供している。食欲がない方への取組を行い改善している。お皿や盛り付けなど食べたくなる環境となるよう工夫している 毎日の摂取量を記録・把握し、病状や状態に応じて必要量が確保出来るよう工夫している		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導を受けながら、舌ブラシやスポンジ等その方の状態に応じた道具を利用しケアに努めている。同時に口腔内の状態確認を行っており、必要時には御家族同意のもとで歯科往診で専門的にみていただき、お口の健康を守っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを観察し、タイミングや使用するおむつのタイプを検討している。羞恥心に配慮し声掛けに気を遣い進めている。御利用者個人の能力や機能に応じて手段は様々であり、定期的に評価しながら対応を検討している。	利用者の排泄パターンや習慣を把握し、昼間は可能な限りトイレでの排泄を支援している。心身の状況に応じた介護用品やケアの方法を、介護計画に反映させて改善に取り組んでおり、オムツからリハビリパンツへの改善もみられている。便秘の予防に食物繊維や水分の摂取、運動量等に配慮し、主治医にも相談しながら改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	安易に薬に頼るのではなく、食事や水分摂取量を把握し、活動量を観ながら御利用者への促しを行っている。食事時にもかみ合わせや咀嚼の状況も確認し、調理担当の職員とも都度話をして、その方に必要としている対応を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	事前に予定を組んでおり、お一人お一人の体力や体調・意向を確認してから対応している。御利用者の御希望に添い柔軟に対応している。	入浴予定日(週2回)を設定しているが、排泄時の汚染等には、その都度清拭や入浴で清潔を保持し、予定外の入浴希望者にも柔軟に対応している。利用者の好みの温度や時間、習慣に配慮して、ゆっくりした気分で楽しんでもらい、入浴後は皮膚疾患の手当や水分補給を行っている。入浴をためらう利用者には、時間や職員の変更、声かけ等を工夫して利用者が意欲を持てるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力や耐久性に応じ、また御意向に応じて、離床や活動の機会を設けている。寝たきりや閉じ籠りとならぬよう、参加の機会を設けてリズムを作っている。居室で休みたい方にはゆっくりと寛げるよう照明やカーテン、ドアの開閉に気を付けている。一人で寂しく休めない方に関しては簡易ベッドで見守りの出来るホールで対応している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬には体調を左右する大事で重篤なものであるという認識を持ち、医者の指示のもとで適切な用法、用量を守り服薬支援を行っている。服薬迄の間に7項目の確認事項を守り、間違いが起きないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで培ってきたことや、したいこと出来ることを自主的に役割を持って取り組んでいただいている。貢献感や連帯感に繋がっている御様子である。趣味活動や資格を活かした作品づくりなども手掛け、地域の作品展に出品している。脳活性や機能維持に繋がる取り組みを個別で行っている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など希望に応じて職員が付き添いを行っている。髪を切りたいと近くの理容室へ行ったり、花の季節には公園まで花見に行ったりと気分転換に繋がる支援を行っている。御家族との時間を過ごせるよう希望がある時には外泊や墓参り等の機会を、御家族協力のもと設けている。	利用者の心身の状態や天候、感染症の流行等に配慮しながら、周辺の散歩や日光浴、買い物、公園に花を見に行く等の外出をしている。墓参りや一時帰宅、美容室での整髪、外食等を家族の協力を得ながら取り組み、また、季節の花見や外食、ショッピング、地域のイベントへの参加など全員での外出も計画的に実施して、利用者の楽しみとなっているが、新型コロナウイルス感染症予防のため、現在は外出は控えてホーム内でのレクリエーションの工夫で気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>孫の小遣いや来客へのお礼にと御自身の思い思いの使い方が出来るよう支援している。</p> <p>買物にも同行し、見守り助言をしながら御自身でお支払いしている。その他個別に預り金をいただき希望の物品を購入している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>友人からの手紙のお返事を書いて送ったり、携帯をお持ちの方は御自身で、そうでない方へは話がしたい時には電話で会話が出来よう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>廊下やホールに花を飾り雰囲気作りを行っている。また御家族からも季節に応じた鉢花を定期的にいただき、御支援いただいている。昼は蛍光灯を夜は白色灯を利用し、またカーテンでも雰囲気作りをしている。</p>	<p>廊下や食堂ホール等の共有スペースは余裕があり、明るく開放感に満ちて随所に活花や利用者の作品、絵画、季節に応じた展示物も飾られ、また、台所からは調理の音や匂い伝わるなど、家庭的な雰囲気である。テーブルセットやテレビ等が利用者の動線等に配慮して設置され、廊下のあちこちに休憩用のベンチも置かれて眼下に街並みや人や車の往来が望めている。清掃や空調、衛生管理等も徹底しており、利用者は好みの場所で四季を感じながら平穏に過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>その方の生活スタイルやそのように過ごしたいという御意向があるので、思い思いの過ごし方が出来るよう環境空間の提供や対応など、気持ちよくすごして頂けるよう工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>御家族の協力により趣味で作られていた物、御主人や奥様との思い出の品等、馴染みのあるものを持ち込まれて1人1人個性的な空間が出来ている。個室である良さを充分に楽しんでくださっている。</p>	<p>腰高窓のフローリング仕様の居室は、余裕のある広さで明るく落ち着いた雰囲気、エアコン、ベッド、タンス、床頭台が備えてある。利用者の状況に配慮しながら整頓や清掃等を支援し、家庭同様に快適な生活の維持に努めている。利用者は愛着のある小物や使い慣れた寝具やテレビ、仏壇、家族写真等を持ち込み、また、自分の作品や世界地図等も飾って、その人らしい居心地の良い居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要があれば目印や御案内になるものを利用することもある。支障になるものは置かず怪我がないように常に環境整備に努めている。廊下にもソファを置き、ゆっくりと寛いでいただいている。</p>	/	/



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない